

# 住

## 名古屋東部造園組合

# 庭の好みは変化しても、 基本は自然が持つ美の表現

### 伊勢湾台風がきっかけで造園業が増加

日本の庭は古代において神々の遊ぶ場であり、極楽浄土を再現したものとしてつくられていたようです。やがて庭づくりを専門とする人達が現れて来ます。平安時代から鎌倉時代にかけて活躍したのが石立僧と呼ばれる人達で、中でも夢窓国師や雪舟といった人が有名です。この頃につくられた庭は禅宗的な世界観を表現しています。その後、さまざまな形式の庭がつくられていきます。ただし庭を持つことができたのは大名、上級武士、寺院、大商人などごく一部に限られていました。明治になり、日本に洋館が建ち、洋風の庭もつくられるようになりました。

戦後、一戸建て住宅の需要の増大と共に、庭づくりへの関心も高まってきました。昭和30年代後半からの高度経済成長がそれを後押ししました。昭和34年に伊勢湾台風が東海地方を襲い、果樹栽培が盛んであった名古屋南東部も大きな被害を受けました。それまで果樹園農家の副業として庭木の手入れをしていた人の中から造園業へと替わる人達が出てきました。

### 日本庭園からガーデニングまで

造園業者の増加と共に、組合の結成の話が持ち上



がり、昭和49年に名古屋東部造園組合が設立されました。庭に対する考え方は時代と共に変化します。かつては庭木の主役は松でしたが、現在はヤマボウシ、ハナミズキ、エゴノキといった雑木が好まれ、ハーブの人気も高まっています。自然石には「顔」があり、顔の向きによって庭の表情を変えることができましたが、飛石や延段などにもコンクリート製やレンガなどが使われるようになっていきます。つまりガーデニング的な発想、あるいは花壇の延長としての庭が増えています。さらに庭づくりに対する発言権が男性から女性へ移行しています。造園業としては昔ながらの作庭技術を継承しつつ、新しい庭づくりの感覚も身につけなければなりません。造園工事には玉掛けや小型移動式クレーンの操作も大切になっています。そこで組合では国家資格の造園技能士取得はもちろん、造園施工管理士、土木施工管理技士などの資格取得もサポートしています。

**DATA** ■名古屋東部造園組合  
所在地: 天白区塩釜2-105(株)浅井造園

・昭和49年: 名古屋東部造園組合が設立  
・平成16年: 組合設立30周年の記念事業として  
「あいち花フェスタ・フラワードーム」に出席。銀賞を獲得